

平成 29 年度第 1 回恵那市総合計画推進市民委員会会議録

日時：平成 29 年 9 月 1 日（金）

午後 1 時 30 分から

場所：恵那市役所会議棟 大会議室

1. 委嘱書の交付
 2. 会長あいさつ
 3. 副市長あいさつ
 4. 会議の公開、公表について
 5. 副会長選任、あいさつ
 6. 議事
 - (1) 総合計画の進行管理について
 - (2) 若者会議の報告について
 - (3) 地方創生交付金事業の事業評価について
 7. その他
 8. 閉会のあいさつ
-

■事務局（進行）これより第1回恵那市総合計画推進市民委員会を開催させていただきます。

はじめに、8人の委員が交代されていますので副市長より委嘱書の交付を行います。お名前を申し上げますのでその場でご起立いただき、委嘱書を受け取り下さい。

1. 委嘱書の交付

〔安藤委員、澤田委員、鈴倉委員、西尾委員、長谷川委員、平井委員、丸山委員、森岡委員に委嘱書を交付〕

〔副市長から委嘱書を交付〕

■事務局（進行）ありがとうございました。それでは、次に西村会長よりあいさつをいただきますと存じます。よろしく願いいたします。

2. 会長あいさつ

■会長 総合計画の中身の淘汰について、みなさんのご意見をお伺したい。心がけなければならないこと、みなさんにもお願いしたいことがあるが、総合計画の立案の段階では、あんなのがいい、こんなのがいいという想いを述べてきたが、今度は実際に行う段階でどのように実行するかという視点でご発言をいただきたい。そして、総合計画を立案して丸2年が経とうとしている。その間に市長の交代があり、新市長の想いもあるだろうからいずれは見直す必要があると思っている。その際にも何を残して継承するのかなど次年度以降に議論していただくことになると思うが、理屈の上で考えるよりも実際やってみて成果が出はじめているものを伸ばしていく、現場から学び、現場のことを取り上げていただくという姿勢でお願いしたい。

そして気がかりなのは、人口減少についてはすこぶる危惧しております。いわゆる出生数、恵那病院の産婦人科が10月から本格稼働するわけですが、生まれる実数から考えると目標の450人には全然届かない。目標を設定したのにその目標に届かないことに対する批判を甘んじて受けなければいけないが、逆に言えば、450人に設定した意味を考えていただきたい。各地域すべての小学校を複式学級では無く単式学級で残したい。思い入れのある施設、地域の拠点の施設でもあるので是非実現させたい。ところが、現実的には300人を割る数字になってしまっている。ということは、いずれ小学校の統廃合の課題も手をつけなければならなくなってくる。いくなれば運営にかかる諸経費がかかってきってしまうというような問題が出てくる。そういう深刻な問題を抱えているんだということ

を肝に銘じつつ、そういうことに甘んじないで、なんとか反転させる知恵を披露していただきたい。部会でもそういうレベルで議論するという意識を持っていただきたい。

3. 副市長あいさつ

■事務局（進行） 次に大塩副市長よりあいさつ申し上げます。

■副市長 本来ですと市長が来てごあいさつするところですが、他の所用がございまして、出席できませんでしたので、副市長の大塩があいさつさせていただきます。

平成29年度第1回の総合計画推進市民委員会、新たな8名の方に委嘱をさせていただきました。半年間という期間ですがよろしく願いいたします。そして本日は日中というご多忙の中、委員のみなさまにご出席いただきましてありがとうございます。

先ほど西村会長よりお話があったように、平成27年度に第2次総合計画を策定し、平成28年度からスタートしたということで、1年と半年が経過した訳でございます。本日は平成28年度にどのように進捗ができたのかというところのご審議をいただきたいと思っています。よろしく願いいたします。

先ほど西村会長から人口のお話がありました。もう少し細かく話させていただきます。平成24年は422人の出生数でございましたが、昨年は297人、300人を割ってしまいました。平成27年は333人という数字ですので、300人を割ったという衝撃的なことでもございました。平成29年度の4月から8月までの推移をみてみますと、平成28年度の数字を若干下回っている状況です。従って今年度は昨年の297人を下回るのではないかと懸念をしています。西村会長が言われましたように450人という設定をしていますので、なんとしても確保したいという思いで行政の方も進めていますのでよろしく願いいたします。そんな中で恵那病院の産婦人科につきましては、今年の4月から産婦人科を開設して、この10月から妊婦の方の診察が始まるということでございますので、近くで出産できるということから是非ご利用いただきたいと思っておりますし、恵那病院の状況を申し上げますと、やはり新しい病院ができたということで、利用者が増えております。特に入院される方が多くなっています。愛される病院として多くの方に利用していただければありがたいと思っています。

今週の月曜日、新たな事業がスタートしました。市長の肝いりということで恵那くらしビジネスサポートセンターが恵那駅の近くですが開設されました。起業のサポートをしたり、移住定住の相談や雇用についても一緒に相談していこうということで、多くの方に恵那市に移住していただきたい、起業される方にはサポートし、就職したいという方にはハローワークと連携して応援していきたいということからスタートしました。これまでに多くの方が利用していただいております、良いスタートが切れたと思っています。

もう一つ嬉しいニュースがあります。来年の4月から始まるNHK朝の連続テレビ小説「半分、青い」が放映されます。これの主たるロケ地が恵那市になります。主演女優は永野芽依さん、その他に中村雅俊さん、風吹ジュンさんなど皆さんご存じの俳優さんがこちらの方にみえるということで応援していきたいと思ひますし、皆さんにもドラマを見ていただくと共に、PRしていただければと思ひます。よろしくお願ひします。

4. 会議の公開、公表について

■事務局（進行） 恵那市審議会等の会議の公開に関する指針により、本委員会は公開ということになりますので、ご了承をお願ひいたします。

5. 副会長の選任

■事務局（進行） 前副会長の樋田一成さんが退任されましたので、副会長の席が空席となっています。ここで副会長の選任をお願ひいたします。副会長の選任につきましては、恵那市総合計画推進市民委員会設置要綱の5条の規定により、会長が指名することになっています。西村会長ご指名をお願ひします。

■会長 平井委員にお願ひしたい。

■事務局（進行） では副会長に地域自治区会長会議から選出の平井委員にお願ひする。平井副会長は前の席に移動をお願ひします。それでは平井副会長からごあいさつをお願ひします。

■副会長 飯地地域自治区会長の平井一兵と申します。突然、大役を仰せつかりました。微力ではありますが西村会長の元で一生懸命やらさせていただきますのでよろしくお願ひします。昨年までは快適部会の部会員ということでこの総合計画に携わってきました。特に飯地町は恵那市13地区ある中で一番人口が少ない、現在約640人となっています。その中でなんとしても地域の存続させなければいけない、そのためには若い方に飯地に住んでいただきたくため、移住定住に力を入れています。私がいつもお願ひしていたのは、小学校が無くなるとさらに若い方がいなくなってしまうので、なんとか小学校を残していただきたいということをお願ひしてきました。今、飯地小学校の全校生徒は25名ということで完全な複式学級になっていますが、これをなんとか複式解消までもって行きたいというのが飯地町の希望です。大変厳しいですけどそれに向かってがんばっています。ということでみなさんには色々とお世話になりますがよろしくお願ひします。

■事務局（進行） それでは、早速、議事に入らせていただきます。議事の進行は恵那市

総合計画推進市民委員会設置要綱の規定によりまして、西村会長にお願いします。

6. 議事

■会長 今回の議事は総合計画の進行管理について、若者会議の報告について、地方創生交付金事業の事業評価についての3つになります。それぞれ関連しますので一括して事務局より説明し、その上でご意見をいただきたい。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 この会議の資料は事前に配布され、目を通していただいていると思うので、はしょった説明であったが、各委員のご意見を伺いたい。この後の各部会でも議論していただくが、全体で確認しておきたい、また、こういう提案をしたいという意見があれば伺いたい。

■宮崎委員 我々の一番大きな任務は、進行管理になるわけですが、進行管理が適切に行われていかないと計画も夢物語になってしまう。ところが自分自身を考えると恵那市役所の中でどの課や係がどこにあるかさえも十分に認識していない。ましてや、どの事業がどの課で行われているか、その進捗状況がどうであるかというようなことも把握していない。そういう中で進行管理に携わるわけであるが、おそらく第1次の進行管理の評価を各課で行っていると思うが、おおよその恵那市総合計画の進行管理の流れと、我々外部委員の進行管理の流れの中の位置づけを簡単にお話いただきたい。

■会長 委員会は総会の位置づけ、それぞれの部会で各事業を担当している部長が入るので、詰めた議論や各実情を踏まえた議論をしていただき、それを踏まえて委員会にかけていくという流れである。委員会については年2回程度を考えている。部会の充実をお願いしたい。また、部会で議論する中でさらに他の専門家を臨時的に招集したいということであればそのように対応していただければよい。

■会長 その他いかがでしょうか。

■会長 よく行政が対応すると、「できません。なぜならば」という対応があるのですが、このような対応をされていては地方創生はできない。要は「できるようにするにはどうしたらよいか」という思考方法で行政の各部長、課長も姿勢を転換して事業を実施していただけていると思っている。農業分野について少し懸念をしていることは、中山間地の農業の担い手の高齢化であります。70年代、80年代は作った物をどのように販売するかという議論が日本全体で行われてきたが、今や耕す人がいないという問題も含めて全国的に議論されている。恵那市の耕作放棄地の面積、どのような人達が担っているのかということに

ついて、農政を担当している部長さんに現状の説明と今後の方向性について発言いただきたい。

■農林部長 恵那市の農政の現状についてご説明をさせていただきます。現在の耕作放棄地ですが、定義としては1年以上農作物が作られていない耕作放棄地の面積は500haを超えます。主に中山間地は平地に比べて農業の環境、経済的にも厳しいという中で耕作放棄地が多いというのが現状でございます。農業は恵那市の基幹産業ということで農業を再生していきたい、農業に携わる方の所得の向上につながるように平成29年度から「儲かる農業プロジェクト」という事業を実施しています。農業の抱える課題は担い手の不足であります。特に水稲ですが、今作っている方が高齢になったとき、後継者に引き継ぐことが難しくなっている。後継者については、農家の長男次男をあてにするのでは無く、組織として経営体を育てていこうということで、担い手を組織的なものにする。農地を集積化する形をとっていき、集積化の中で耕作放棄地を耕作できる土地に変えていきたいと思っている。

■会長 日本の農業生産者の高齢化もありますが、最近、政府の方で農産物の輸出という問題が議論されている。2020年東京オリンピックがあります。恵那の食材は東京オリンピックで食べられるでしょうか。答えは食べられない。150万食を提供するわけですが、その食材についての規定があるのです。北京オリンピックでは中国野菜は一切使われていない。恵那の食材は今の段階では一切使われない。使われるためには認証を受けなければならない。逆に認証を受ければ一気にそういうルートが開ける状況になる。ほんとに農業を支えてやっていくのであれば、作物は何でもよいのでそういう認証を受けることが必要なんだという生産者への意識啓発と認証を受けるための申請に対する補助金など新しい視点をもった戦略性のあるものを図りつつ、なおかつ休耕田の問題も考えていく必要がある。農業の問題は介護や福祉の問題にも連動する。今後10年後を考えると今は老人が老人を介護すると言っていますが、両方とも70歳で10年後にはどちらかが亡くなり終末期に単身になる。在宅介護となったその時に知人や子ども、孫が近隣にいるときに恵那市では農業は欠かせない1つの産業だというふうにすると、単なる自給自足ではなく地域を支える産業として見つめ直す必要があり、支えるには先ほど言ったGAP（農業生産工程管理）も取りに行くような試みをしないといけない。福祉の問題と連動しながら考えていくという視点が必要である。個人としてはそう思っている。私の出身である兵庫県のある地域では10年間ぐらい農地の集約化をしている。そこは高齢化が進んでいるので個人での生産が難しくなり、企業に耕してもらっている。そこにいる従業員は元々兼業農家をやめた人、地域の労働力を工場労働者として活かす道もあるが、その人達の農業の経験を企業が活用する方法を考えたときに農地法が邪魔をしたので特区を申請した。ようするに生産をする組織、販売をする組織を含めてもう一度農業という物を立ち返り考える必要があると

いう問題提議をしておきますので各部会にて詰めていただきたい。

もう一つ気になっていることは、ふるさと納税のことですが、担当部長さんに現状を話していただきたい。

■まちづくり企画部長 昨年度のふるさと納税の状況をご説明いたします。まず、恵那市へ納税をいただいた件数は98件、金額は約600万円です。それから恵那市民が他市町村へ寄付した件数は388件、金額は約3,400万円です。所得税から控除した額が約1,400万円になりますので、差引き800万円の負け越しという状況でございます。

■会長 郷土を愛するとか言いますが、実は流出なんです。報道でのあるように億単位で納税があるところもある。返礼品競争をなさいとやっているわけでは無いが、そういうものについても、しっかり議論していただきたい。単純に言えば1億円の納税があれば1億円の事業ができるという議論もあり得る。言葉の上で郷土を愛する、郷土を親しむ住民というけれども、住民の現状は今、部長が説明したとおりです。そういう所から変えていくことを考えていただきたい。

最後に先ほど有償運送事業いいじ里山バスの話が出ましたが、過疎地域を対象とした人間を運ぶサービスに併せて宅配のようにして荷物を運ぶことができる。荷物と人間の両方を運ぶことができる事業が今日から受け付け開始されている。このような仕組みがあるのでそれを活用するように、できないではなくて、実現させるためには何が必要かというような姿勢で行政は頭を使っていたいただきたいし、住民の協力もお願いしたい。必要であればNPOの立ち上げもあり得る。そういう挑戦的な地域存続、こういったことも部会で議論していただきたい。先ほど副市長さんのあいさつにありましたが、恵那くらしビジネスサポートセンターはワンストップサービスであり、地域づくりの総合窓口、個人のための総合窓口、行政ですと総合行政こういった視点で行政の各部長さんには総合計画を実施するために必要な知恵を各部会で披露していただき、議論を深めていただきたい。

会長ばかりしゃべって申し訳ないですが、最後に金融機関の方、ご意見はありますか。

今、問題になっているのは相続などにより銀行間でお金が都市部へ集中する。金融機関が存続していくためにも、地域に仕事や人を残すような知恵をお借りしたい。各部会で積極的に議論していただきたい。

その他、商工団体、地域自治区の方、ご意見はありますか。よろしいですか。

それでは、これにて議事を終える。

7. その他

■事務局（進行） ありがとうございます。それでは、その他ということで、この後予定しております各部会について、説明をさせていただきます。

〔 事務局から説明 〕

■事務局（進行） 恵那市総合計画推進市民委員会を閉じさせていただきます。閉会のあいさつにつきましては平井副会長にお願いいたします。

8. 閉会のあいさつ

■副会長 先ほど西村会長から色々ご提議いただきましたので、これから各部会に分れて議論を深めていただきたいと思います。大変ご苦勞様でした。

〔 閉 会 〕